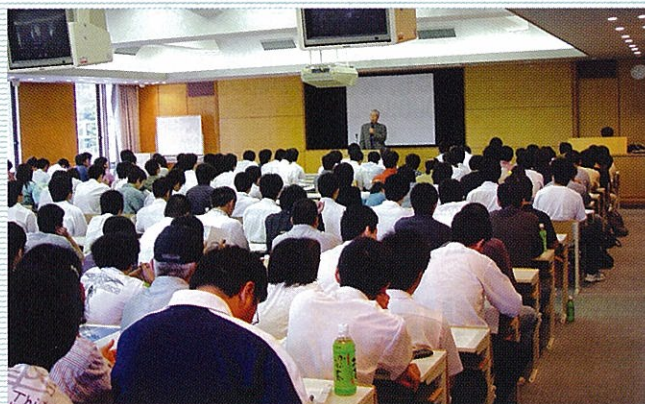


オープンキャンパスに350名来場

今年度のオープンキャンパスは7月26日と10月4日に開催され、県内外から延べ350名を超える生徒、ご父母の皆さまからご参加いただきました。特に第2回目は集客が心配されましたが、予想を上回る130名余りが集まり、また、なかには2回とも参加した熱心な生徒もあり、推薦入試前の関心の高さがうかがえました。

参加した生徒たちは、大学と入試の説明を受けた後、それぞれの希望の学科で模擬実験を体験したり学内を見学してまわりました。また、来場者全員には学生食堂の無料食事券が配布され、つかの間の学生生活を満喫しました。

模擬実験では、各学科の教員に混じって研究室の学生たちが実験・実習の補助にあたり、実験内容や機器の使い方を丁寧に説明していました。



— 一年間来学者は約1,500名 —

本学には、オープンキャンパスのほかにも毎年1,000名以上の方が見学に訪れています。内訳は高校生やPTAを中心に、小中学生や一般企業の方などさまざまです。近年の傾向として、総合学習の時間を利用した1, 2年生の見学が増えていることと、単なる見学にとどまらず、模擬授業や実験を希望する高校が増えています。本学では地域に開かれた大学として、一人でも多くの方の見学をお待ちしています。

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2003/opencampus1.htm>,
<http://www.niit.ac.jp/news/2003/opencampus2.htm>〕

CONTENTS

- 1 オープンキャンパスに
350名来場
- 2 学内無線LANを導入
高速バスでの
通学が便利に
- 3 大学院の授業料を減額
教員父母連絡
交流会を開催
- 4 第8回工科大祭&
スポーツ大会
- 5 卒業生の
職場を訪ねて④
- 6 建築学科の
「情報処理実習」
のチームが軒並み
コンペ入賞の快挙!!
そしてなんと、建築1年
「基礎ゼミ」のチームまでも
- 7 平成15年度の
公開講座が終了
- 8 柏崎の大花火大会と
綾子舞をインターネット
ライブ中継

Robo Cupサッカー
シミュレーションリーグ
Team ORANGEの
活動について
- 9 われら、弓道部/
山崎講師が日本
材料学会より表彰
柏崎高校1年生が
一日体験入学
- 10 メキシコ・
グアナホアート大学と
共催セミナーを開催

ハルビン理工大学
学術交流団が来学
- 11 大学開放・研究成果
プレゼンテーション

技術者向けスキル
アップ講座を開講
第3回柏崎工コ
産業展に出展
- 12 蓮池薫先生による
朝鮮語の講義
新任教員のお知らせ
編集後記

学内無線LANを導入

本学では情報環境を整備するために、2.4GHz帯の周波数で最高速度54Mbpsの無線LANアクセスポイントを、学内の49カ所に設置しました。これにより、在学生や教職員が各講義室、研究室、ラウンジ、学生食堂、コモンプラザ等の主要箇所全域において学内ネットワーク及びインターネット上のサービスを快適に利用できるようになりました。さらにS2講義室9では、講義室のOAフロア化を図り、有線と無線のいずれも使用できるようになったため、学生がノートパソコンを持参して空き時間に講義室から自由に学内ネットワークやインターネットを利用することが出来ます。

無線LAN環境等の整備により、昨年度導入した「ターミナルサービス」及び「メタフレームシステム」を利用して、大学のサーバ機に置かれているソフトウェアをより効果的に利用することが期待されます。

このように本学では、学生の情報教育環境の向上を図るとともに、自学自習の促進や教員と学生間のコミュニケーション手段として、無線LANをより効果的に活用することを考えています。

今後もインターネット専用回線の増強等、学内の情報教育環境の充実を図って行く予定です。

計算機システム委員会

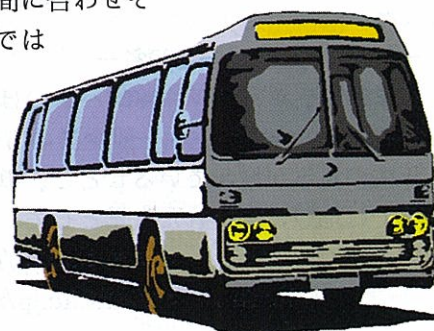


高速バスでの通学が便利に

—高速路線バスの到着時間に合わせた無料スクールバスを運行—

本学では平成16年4月から、高速路線バスのダイヤに合わせた無料スクールバス（乗り継ぎ通学バス）を運行することになりました。これにより乗り継ぎ時間が大幅に短縮されるほか、これまで不便だった上越方面からの通学が便利になります。また、柏崎駅から本学までのバス運賃（往復500円）が不要となることから、バス通学している学生、またはバス通学を検討している学生、受験生にとっては朗報です。この通学バスの運行に伴い、現在運行している新潟駅南口からの直行高速バスは今年度で廃止となります。

新しい無料スクールバスは、高速路線バスが柏崎インターチェンジ（以下柏崎I.C.）と上方停留所に到着する時刻に合わせて本学のスクールバスを運行するもので、午前1、2限の開始に、午後は3～5限の終了時間に合わせそれぞれ3便を運行します。本学から柏崎I.C.までは10分、上方停留所までは8分でアクセスでき、新潟駅からの所要時間は、最短で現在の直行バスと同じ95分（柏崎駅で乗り換えると最短でも125分）、高田駅からは最短54分（JRとバス利用で最短60分）で通学できるようになります。詳しくは、学生課（0257）22-8102へお問い合わせください。



大学院の授業料を減額

平成16年度から、本学大学院の学納金が減額となります。これにより、本学を卒業（卒業見込）の学生は、国立大学の大学院より安い金額で進学できるようになります。また、新潟工科大学産学交流会の会員企業からの入学者も、本学卒業生と同様の取り扱いとなります。

以下の金額は、平成16年4月以降に在籍している全大学院生に適用されます。

[本学卒業生]

	博士前期課程（修士課程）		博士後期課程	
	16年度	15年度	16年度	15年度
入 学 金	免除	免除	無料	無料
授 業 料	440,000円	880,000円	440,000円	880,000円
実 験 実 習 費	75,000円	150,000円	無料	150,000円
施 設 設 備 費	62,500円	125,000円	無料	125,000円
初年度納入金合計	577,500円	1,155,000円	440,000円	1,155,000円

[上記以外の者]

	博士前期課程（修士課程）		博士後期課程	
	16年度	15年度	16年度	15年度
入 学 金	100,000円	100,000円	無料	無料
授 業 料	880,000円	880,000円	880,000円	880,000円
実 験 実 習 費	150,000円	150,000円	無料	150,000円
施 設 設 備 費	125,000円	125,000円	無料	125,000円
初年度納入金合計	1,255,000円	1,255,000円	880,000円	1,155,000円

[関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2003/postgradfee.htm>]

教員父母連絡交流会を開催

平成15年度教員父母連絡交流会が9月6日（土）、300名を超えるご父母が出席して行われました。同会は、本学学生の保護者を会員とする新潟工科大学後援会が、学生の教育活動や大学生活の充実をはじめ、教職員と保護者の方々との連携・交流によって、より良い教育環境を作っていくための活動の一環として毎年開催しているものです。

前半の「学長父母連絡交流会」では、丹野頼元学長が技術の発展と大学教育の関わりについて、本学の教育体制や学生の生活変化なども交えた内容で講演を行いました。また後半の「学科別連絡交流会」では、学科別ガイダンスや個人面談、前期成績表の配付があり、担当教員が1名ずつ丁寧に成績表の見方や日常の生活ぶりを説明しました。

このような例は他大学でも少なく、きめ細やかな教育を掲げる本学を象徴する行事となっています。今後も大学とご父母との密接な関係の構築に努力してまいります。



第8回工科大祭&スポーツ大会

昨年までは秋に実施していた工科大祭が、装いを新たに6月21日（土）に行われ、たくさんの来場者で賑わいました。本学が会場となった「科学の祭典in柏崎刈羽」と日程を合わせたことと、土曜日1日の開催としたため凝縮された内容となりました。最も心配された天気も、この日ばかりは太陽が顔を出し、梅雨の中休みといったところでした。

この日の目玉となった井上マー、ペナルティによるお笑いライブには、子供からお年寄りまで幅広い世代が来場し、満席の会場は笑いの渦に包まれていました。

「第1回科学の祭典in柏崎刈羽」では、市内および周辺町村から大勢の家族連れが来場し、工科大祭をいっそう盛り上げていただきました。展示ブースではスライムや押し花、ロケットづくりなどを体験する子供たちが賑わい、本学からも、各学科の特徴を生かした救命ロボット、木炭電池、インクボトル、風車などのブースで、教員と学生が一体となって来場者への説明にあたっていました。

工科大祭の前日に行われたスポーツ大会では、フットサルと3 on 3で熱い戦いが繰り広げられました。台風6号から変わった温帯低気圧の影響で、強風によりフットサルの開始が遅れたほか、荒れ狂う砂塵でゲームがたびたび中断することはありましたが、競技は無事終了しました。

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2003/kokadaisai03.htm>〕



卒業生の職場を訪ねて④

株式会社エムシーコーポレーション 建設営業部
武田彩子さん（建築学科2002年3月卒業）

----- 今日は時間をとっていただいてありがとうございます。早速ですが、今どんな仕事をなさっているのか、ご紹介いただけますか。

武田：はい。東京の建設・不動産関係の会社に勤めています。私の所属するのは「建設営業部」というセクションで、例えば土地を持っている地主さんにアパートやマンションを建ててもらって、それを一括借り上げて運用する、というような仕事をしています。

----- 何やらスケールの大きいお仕事ですね。最近手がけた物件などについて、少し教えてください。

武田：よく聞いてくださいました！ ついこの間、私自身で契約を取ったんですよ！

----- マンションの？

武田：いえ、ケアハウスです。わかりやすくいうと、「高齢者向け」の「介護付き共同住宅」ですね。私の会社で初めて扱うことになったんです。このアイディアは地主さんに一生懸命プレゼンして勝ち取りました。プレゼン当日は心臓がバクバクで、卒業研究の発表会を思い出しましたよ（笑）この分野はライバルも多いんですけど、大活躍ですよ。

----- すごいですね。大学の卒業研究で鍛えられたのが役に立った？

武田：まさに。卒研では、バリアフリーの視点で鉄道駅のデザインや近未来の旅客輸送システムを構想して、図面をCGで描き上げました。これ、しずおかユニバーサルデザインコンペの一次審査もパスしたんですよ。東京まで車椅子で電車旅行していろんな調査をしたりと、研究室の生活はとても充実していて楽しかった。今のケアハウスの仕事にも通じる内容ですし、在学中にこのテーマに取り組んで本当によかったと思っています。

----- ところで、就職活動は大変でしたか？

武田：それは大変でしたよ。特に、関東方面で就職活動するには早めに動く必要がありますから。4年になって研究室に入ったばかりなのに、先生に「しばらく就職活動に専念します」って宣言しちゃって。「あ、そ。がんばれ」と快く送り出してくれましたけど（笑）

----- 都会で颯爽とOL生活、そして大活躍、とはカッコイイですね。

武田：でも、高いヒールでカツカツ歩いていると結構疲れますから、毎日腰痛体操して、青汁飲んでガンバってます（笑）

----- 最後に、大学の後輩、あるいは大学進学を意識している高校生たちに何か一言を。

武田：新人で社内的に活躍が認められたこともあって、来年度のリクナビに私が載ることになってしまいました！これで、工科大建築学科卒業ということも、東京で就職活動していたことも全国版ですよ（笑）よかったら、私のページを探してみてくださいね。



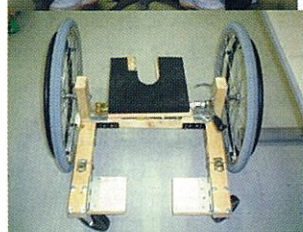
バリバリ仕事をする武田さん。入社もない新人とはいえ大活躍の様子。大学で学んだユニバーサルデザインの考え方が生かせる仕事内容という。

（司会：建築学科 教授 飯野 秋成）

建築学科の「情報処理実習」のチームが軒並みコンペ入賞の快挙!!! そしてなんと、建築1年「基礎ゼミ」のチームまでも!

私が受け持つ建築学科3年前期の必修科目「情報処理実習」では、本年度新たな試みを行いました。「コンペティション入賞」を目標として、履修者を全10グループに分けそれぞれ自由テーマで制作活動させるという、教える側にとっても受講する側にとっても少々やっかいなシラバスを(少タイキオイで?)組んでしまったのです。必修科目なのに(笑)……そしてなんと!本広報誌の原稿締め切り間際に、本授業科目にかかわるBig Newsが飛び込んできました。

去る11月8日、柏崎エネルギーホールで政策提案コンペ「プロジェクト21」の公開審査会が開催されました。5月の1次審査をパスした6組のチームは例年以上のハイレベルの提案内容とプレゼンテーションを展開して大いに盛り上がりましたが、なんと、本授業科目からエントリーした田中孝明君チームと村田亨君チームが共に「優秀賞」を獲得するという快挙を成し遂げました。そしてもう一つ!「しずおかユニバーサルデザイン(UD)大賞」は全国規模の有名なコンペですが、今年度1,000件を超える応募者の中からわずか4件という超難関の「優秀賞」



♪依田君らが開発した、足の不自由なオフィスワーカーのための車椅子ユニット(左)。普段は机の下に折りたたんでしまっておき(上)、必要となきのみオフィスチェアに取り付けて使う(左上)。執務中はオフィスチェアに座っており、来訪者に足が不自由とは認識されない。利用者の精神的開放感に想像に難くないだろう。食堂や洗面所

など、オフィスでのやや長い距離の移動時に簡単装着して使う。試作品は木製だが、意外にもがっちりした作りだ。クラフトマン精神にあふれた、依田君らグループの「やさしさ」がにじむ一品。

アイデア(?)や斜に構えた提案(?)などが続出……TAの院生諸氏(博士課程2年の塚本健二君、および修士課程2年の地濃芳和君)も私も、決して否定したり怒ったりすることなく(ガマンするのは苦しかったですが^^)、常に建設的な意見を出しながら対応することを心がけていました。そして、興味の持てるコンペの選定方法、具体的なアイデア起こしのノウハウ、そしてCAD/CGテクニックに至るまでアドバイスを繰り返しました。試験期間中に一度作品発表会を開催しましたが、その後も夏休み返上で、応募を目指してポスターや模型作りに没頭する学生たちには、正直頭の下がる思いでした。これまで長期にわたり皆で激論を戦わせてきた成果がようやくここに来て実を結び



♪田中君チームは、なんと本学建築学科のカリキュラムにメスを入れた。地元の小学校の総合学習と連携させ、小学生・大学生のコラボにより環境共生公園の中にエコ建築を建設させて人間と環境との共生を問う、という具体的な教育プログラムを構想した。本当にこれを実施したら、本学建築学科は「バウハウス」以来のインパクトを世界に与えるに違いない(笑)。村田君チームは洋上に風力発電システムを設けることのメリットを力説した。発表グループの中でもとびぬけてお金のかかりそうな半国家プロジェクト(?)ながらも、説得力のあるデータを緻密にプレゼンできる技量にはシタを巻いた。また入賞はできなかったが、三門明君チームからは街を昭和30年代に戻し「レトロ観光スポット」を形成したいというアイデア。最近のNHK朝ドラが醸し出す情景が重なったのか、会場からは少なからぬ反響があった。

(2次審査通過)に、やはり本授業科目からエントリーした依田淳君チームの作品が選ばれました。これについては、11月中旬の最終プレゼンを経て、12月の表彰式で最終的な「順位」が決定するそうです。依田君、がんばってね。v(^^)

最近では1, 2年次生の段階で既にCADやCGを使いこなす学生も多いようです。これは1年次の前期からCAD演習や模型制作、大判ポスター作りなどを徹底的に行わせている本学科特有のカリキュラムの効果もあると思いますが、それならば「3年のこの時期であれば、コンペ入賞も狙えるレベルにあるのでは」と考えて、今年度試行的に行ったというわけです。

授業の初期段階では、学生たちもとまどっていたのでしよう。陳腐なア



♪「情報処理実習」の成績はポスターセッションで評価した。建築の先生方や4年生の先輩にもギャラリーとして参加していただき投票を募った。すると第1位の作品は、中野宏哉君率いる「酒で柏崎を盛り上げよう」チーム……人は「家で」飲む派と「店で」飲む派に分かれる。だったら相互乗り入れをうまく回って酒を消費してもらえば経済効果は2倍だという。このアイデアには思わず一同爆笑! なお、プロジェクト21では1次審査であえなく玉砕した(笑)

はじめたことで、学生たちも私も感慨ひとしおです。

入賞した学生の皆さん、本当におめでとうございます。
また先ほど、建築1年の「基礎ゼミⅠ」で結成した阿部直美さんらのチーム（インストラクター：小田部正幸君（建築4年））の「しずおかUD大賞」応募作品がなんと1次審査をクリア！というニュースも入りました。一方では、せっかく応募した作品が入賞せずに涙を飲んだチームもありますし、応募できるレベルに到達できずに終わったチームもあります。……学生の皆さん、一つだけ肝に銘じてください。コンペに勝ち残ることが本当の目標なのではありません。大事なことは、コンペを通して自分を「主張」することなのです。落選することを覚悟の上で、あえてコンペ主旨に反する作品を提示することだってあり得るのですよ。それによって、社会にインパクトを与えられるのなら……これからも建築家の卵として、これをきっかけにいろいろなコンペに果敢に挑戦し続けてください。きっとスポットライトを浴びる日が来ますよ!!!

建築学科 教授 飯野 秋 成



♪建築1年前期「基礎ゼミⅠ」では「環境にやさしいイス」制作コンペを開催。大学祭で一般からの投票数1位を獲得したのは、青柳悠君チームによる巨大白色球体イス「おむすびころりん」。発泡スチロール廃材利用というアイデア、そしてイビツな球体がかもし出す不思議な座り心地がウケた。そして、「しずおかUD大賞」の1次を突破した、阿部直美さんチームの「+C+ 冷蔵庫」。内部が回転するので奥の食品が取り出しやすいという。つまり、「これ、20世紀の肉だぜ」というミイラ発見の経験(?)をしなくて済むらしい(笑)。CGを駆使して、さながらTOSHIBAやSARPのパフレット(?)ライクに仕立てた工夫もミコト。



平成15年度の公開講座が終了

[教養講座]

演題：体験学習による人間関係トレーニング講座 講師：渋谷崇行 助手

日程：6月28日(土)、29日(日)

会場：柏崎市民プラザ

グループに参加しながら、人間関係のあり方を「体験学習」を通して学びました。本学では初めての2日間集中型の講座でしたが、みな真剣に楽しく受講していました。なかには、連日新潟市から通って来られた熱心な方もおり、終了後に行ったアンケートでは「とてもためになった」、「仕事で役に立つ」、「童心にかえってリフレッシュできた」などの回答が寄せられました。

[技術講座]

本年度は物質生物システム工学科により、実験編と講義編の二本立てで実施しました。

☆実験編 日程：9月10日(水)～10月8日(水)全5回

会場：新潟工科大学・物質生物第1学生実験室

受講者が実験しながら学ぶ形式も、本学では初めての試みでした。環境、エネルギー、DNAなどと深く関わっている分子を、実際に手で動かすことにより、講義とは違った理解を得ることを目的として実施しました。仕事柄手慣れた方も、何十年振りかで実験機器に触れたという方も、興味深く没頭していました。

☆講義編 日程：10月15日(水)～11月12日(水)全4回

会場：新潟工科大学・S1大講義室

人間生活と化学の関わりを、環境問題を中心に解説しました。二酸化炭素、オゾンホール、ダイオキシンなどの身近な話題について、化学物質による環境汚染の実態を把握し、生体への影響を理解し、予防・改善に役立てるための講義を行いました。私たちの日常生活に関わる内容だけに、みな真剣に聞き入っていました。なかでも、普段は台所に立ちそうもない男性諸氏の食い入るような表情が印象的でした。

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2003/gijutu-jikken.htm>〕

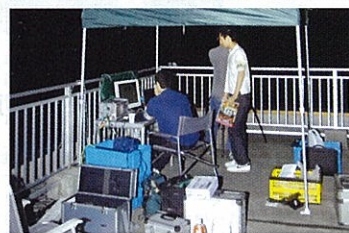
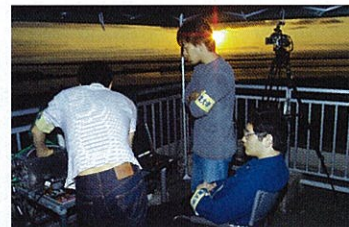


柏崎の大花火大会と綾子舞をインターネットライブ中継

大金研究室 星 野 優
(機械制御システム工学科 4年)

自分が所属する大金研究室では、柏崎・刈羽地域里創プラン、通称：いいねっか (<http://www.iinekka.or.jp>) と協力し、この地域の様々なイベントや風景をインターネットを使ってライブ中継する映像配信プロジェクトを行っています。自分は4年次から、このプロジェクトのサポートメンバーとして参加しています。このプロジェクトは、撮影した映像をリアルタイムで配信するので、当然カメラで撮影して終わりではありません。イベントが行われる現場にインターネットを接続するための回線を用意しなければなりませんし、接続するためのパソコンの設置、映像を配信するための設定が必要です。また、イベントが開催される場所ごとに、インターネットへ接続方法や設定を適切なものにしなければいけません。例えば、自分は今まで海の花火大会、綾子舞の2つのイベントに参加しましたが、花火大会の時はADSL回線でしたが、綾子舞の時は開催場所がADSL提供地域ではなくISDN回線でした。このため、それぞれの回線速度に合わせた映像配信の設定が必要でした。

このようにプロジェクトに参加できたことで、普段とは違うインターネットやパソコンの使い方を知り、より深く理解することが出来ました。また、正直、今まで興味の湧かなかった地域のイベントに対しての認識が変わったことも非常に有意義でした。



Robo Cupサッカーシミュレーションリーグ Team ORANGEの活動について

大金研究室 林 直 哉
(大学院 高度生産システム工学専攻 2年)

Team ORANGEとは、大金研究室と小千谷高校、三条工業高校、長岡工業高校、新潟工業高校により結成されたRoboCupサッカーシミュレーションリーグ（以下、シミュレーションリーグ）のチームであります。RoboCupサッカーとは、ロボットにサッカーを行わせ、ロボット同士の協力能力を競わせる競技であり、シミュレーションリーグとは、実際の競技場の代わりにコンピュータの中に仮想的な競技場を用意し、ボールを追いかけるロボットの代わりに、プログラムによる選手を仮想的な競技場に送り込むことにより競技を行うリーグであり、我々のチームでは各学校がポジション別に選手のプログラムを作成しました。

大金研究室では各高校の先生や生徒さんを対象に、シミュレーションリーグとは何かから、プログラミングのヒント等の内容で講習会を開催し、5月に行われたRoboCupジャパンオープン2003新潟への参加を目標に、1年以上前から準備を行ってまいりました。講師役の私も受講された皆様もそれぞれが未知の体験でしたので、多くの疑問や課題に直面しましたが、回数を重ねることによりそれぞれが知識や技術を得て課題を着実に解決することにより、チームとして成長してゆきました。

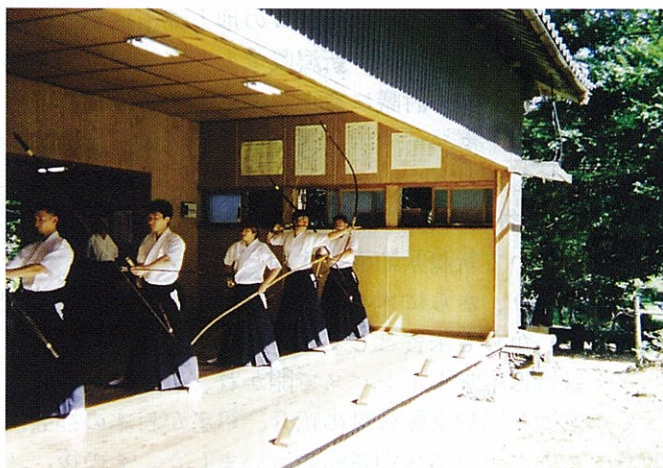
RoboCupジャパンオープンでは、初参加ながら善戦し決勝トーナメントに進むことができましたが、惜しくも入賞することはできませんでした。しかし、これまでの高校生参加への取り組みと史上初の大学と高校の連合チームという点が評価され、人工知能学会賞を受賞いたしました。普段はなかなか接点が無い大学と高校間の交流を行うことができ、より多くの新しいチャレンジの機会を得ることができ、競技での成績以上の成果を得ることができたと思います。



われら、弓道部！

弓道部は、今年度「部」に昇格したまだ新しい部で、部員は現在20名近くいます。練習場所は柏崎市武道館ではほぼ毎日練習をしており、練習中は部員それぞれ目標に向かって練習しています。また、武道館では新潟産業大学の学生とも交流があり、楽しく練習しています。また、木曜日の晴天時には、本大学の体育館裏の多目的広場にてそれぞれの講義終了後、練習をおこなっています。見学、体験したい方は随時下記にご連絡ください。最後になりましたが、今年度の主な大会成績は下記のとおりです。

- ・ 柏崎市市民武道大会、総合優勝
- ・ 信越弓道大会、一般個人男子3位
- ・ 県下弓道柏崎大会、一般男子個人2位、一般女子個人3位
- ・ 上越地区選手権大会、男子二段以下の部総合優勝
弓道部主将 横山 雄貴（建築学科 2年）



山崎講師が日本材料学会より表彰

機械制御システム工学科の山崎講師がこのほど、日本材料学会優秀講演発表賞を受けました。これは、日本材料学会第52期学術講演会における優秀講演者に送られたもので、論文名は「SiC繊維強化Ti合金基複合材の低サイクル疲労強度に及ぼす繰返し周波数の影響」でした。

柏崎高校1年生が一日体験入学

7月25日（金）、新潟県立柏崎高校の自然探究コース1年生41人が、一日体験入学で本学を来訪、4学科の授業を体験しました。

この体験入学は、同校の探究コースのうち、理数系希望者（自然探究コース）の生徒を対象に、夏期集中講義「自然探究特論」の一環として実施されているもので、今年で3回目となります。

自転車やバスなどで集まった生徒たちは、全体ガイダンスに続き、4学科の授業を午前・午後と2コマずつ受講しました。

各学科のテーマ、講師は以下のとおりです。

【機械制御システム工学科】

「近未来のロボット技術」 担当：中嶋新一 教授

【情報電子工学科】

「コンピュータプログラミング」 担当：佐藤栄一 助教授

【物質生物システム工学科】

「触媒のお話し」 担当：相 衛 教授

【建築学科】

「パソコンを使った建築設計体験」 担当：飯野秋成 教授、富永禎秀 教授

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2003/hakko03.htm>〕



メキシコ・グアナホアート大学と共催セミナーを開催

11月6日（木）～ 7日（金）の2日間、本学にとって創立以来初めてとなる国際セミナーを、本学および県内現地（視察）で開催しました。

テーマは「日本およびメキシコの地方都市における道路・環境・公共交通問題」で、このセミナーには日本側から本学教授陣のほか、新潟県土木部都市局長中神陽一氏や柏崎市都市整備部長田村史朗氏が、それぞれ専門の立場から講演や討議に参加しました。

一方、グアナホアート大学からは、建築学部・土木工学部・社会産業学部の各工学部長および行政に携わる14人が参加しました。

冒頭、本学丹野頼元学長およびメキシコ側代表グアナホアート大学学長代行が主催者を代表して挨拶を行いました。続いて新潟県知事（代理）や県議会議員、柏崎市長から歓迎の挨拶があり、さらにメキシコ駐日大使（代理）、国土交通省道路局長（祝電）からも来賓としてお祝いの言葉が披露されました。

第1日目は本学キャンパスで開かれ、基調講演の後、建築学科・富永禎秀教授が風洞実験施設の紹介、筆者が日本の社会基盤施設の政策変遷と評価について特別講演を行いました。その後、メキシコからも同様な話題提供がされました。さらに、本学の吉本康文助教授や飯野秋成教授、行政側からは中神局長や田村部長が、メキシコ側の専門家たちと一括自由討論を行い、第1日目を終了しました。夜は柏崎市民プラザで歓迎・交歓パーティーが、各界の人達も参加して和やかな雰囲気の中開催されました。

2日目は、東京電力柏崎刈羽原子力発電所のほか、北陸道「道の駅」、国土交通省長岡工事事務所管内の東原町遺跡等を視察し、予定の日程を終えました。

2日間にわたるセミナーは密度の濃いスケジュールでしたが、今後の両都市にとって、問題解決に向けて研究を進めていく上で大きな成果を挙げることができました。

建築学科 教授 堀 江 興



ハルビン理工大学学術交流団が来学

本学と学術交流に関する覚書を締結している中国・ハルビン理工大学から、学術交流団（団長 孟 繁勤 副校長）5人が本学を訪問しました。

一行は10月22日（水）に新潟空港に到着し、亀田製菓株式会社を見学しました。翌23日には本学において「学術懇談会」を開催し、ハルビン理工大学側から「日本語専修科の修士課程の学生を新潟工科大学に派遣して研修させたい」との提案があり、今後は両大学において前向きに検討することになりました。その後「記念講演会」を開催し、午後からは大学の施設を熱心に見て回りました。24日は東京電力柏崎刈羽原子力発電所及び株式会社サイカワの見学を、25日からは柏崎を離れ、京都等の文化遺産の見学をしました。

今回の訪問により、両大学間の学術交流の進展と相互文化の理解に大きな成果を上げ、一行は28日に無事帰国しました。来年度は、本学の学術交流団が夏季にハルビン理工大学を訪問する予定になっています。



大学開放・研究成果プレゼンテーション

9月24日（水）、大学開放・研究成果プレゼンテーションを本学を会場に開催し、企業などから約50名が参加しました。実施内容は、次のとおりです。

(1) 研究成果プレゼンテーション

①自然エネルギーの活用と医用情報機器における省電力化

講師 情報電子工学科 助教授 佐藤栄一

②高温高圧水による廃プラスチック熱分解油の脱塩素および脱窒素反応

講師 物質生物システム工学科 教授 秋元正道



佐藤助教授



秋元教授

(2) 研究シーズ展示会（パネル展示）



(3) 研究室開放



制御・ロボット研究室（中嶋教授）



風洞実験室（富永教授）

技術者向けスキルアップ講座を開講

地域産学交流センター主催による、平成15年度技術者向けスキルアップ講座を、三条・燕地域リサーチコアにおいて開講しました。

当講座は企業等の技術者を対象に、本学の持てる情報を地域社会に還元するために実施したもので、7月3日（木）の初回は、機械制御システム工学科・小野塚喬教授が、「材料と基礎－真鍮と鉄鋼の原子配列の違い、金属を強化する－」のテーマで、工業材料について専門的な講義を行いました。講座は12月4日までの間、各学科5回ずつの4シリーズ、計20回で行われます。

〔関連URL〕 <http://www.niit.ac.jp/comp/skillup1.htm>,
<http://www.niit.ac.jp/news/2003/skillup.htm>



第3回柏崎エコ産業展に出展

6月7日（土）、8日（日）の両日、柏崎市民プラザにおいて「第3回柏崎エコ産業展」が開催され、2日間で6,000人が来場しました。本学からは、穂積教授と小野寺助教授がブースを出展しました。

建築学科・穂積秀雄教授は「風車を作ろう」と題し、折り紙と割り箸を使った風車づくりの実演を行ったほか、青少年を対象に、手回し式発電機を使って風力発電の仕組みをわかりやすく説明しました。

一方、物質生物システム工学科・小野寺正幸助教授は、「バイオガスを作って、循環型社会を実現しよう」のテーマで、クラゲのメタン発酵処理システムについて紹介しました。原子力発電所近くの海面には、夏季になるとクラゲが大量発生し、取水の際の影響が深刻になっています。その膨大な処理費用を削減するため、東京電力等と共同でシステムを開発し、実用化をはかっています。

〔関連URL〕 <http://www.niit.ac.jp/news/2003/echosn.htm>



蓮池薫先生による朝鮮語の講義

4月から非常勤講師として「朝鮮語Ⅰ」を担当してきた蓮池薫先生が7月18日、今年度最後の講義を行いました。

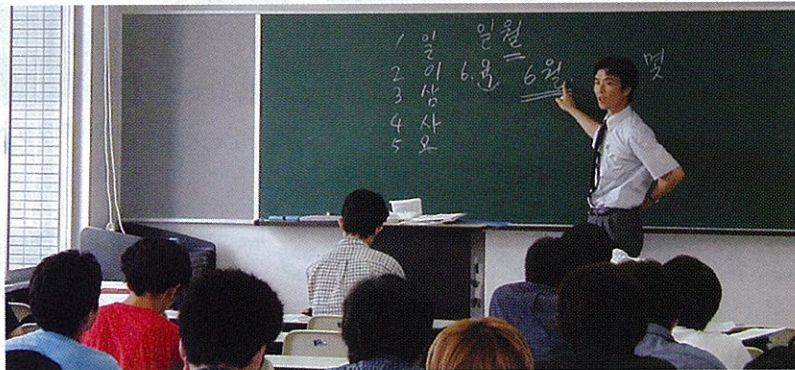
「朝鮮語Ⅰ」は1年次の前期に選択となっている科目で、蓮池先生は毎週月曜と金曜の2回、約40人の学生に朝鮮語の基礎を中心に講義を行ってきました。

講義終了後に蓮池先生は「日本人が朝鮮語を習うときに失敗しやすいことは経験済みなので、発音に力を入れた」と振り返り、「学生がしばしば（北朝鮮にいる）子供とだぶることがあった。いまどうやっているかという気持ちもあるが、若い人と一緒にいると元気づけられた」と語りました。

講義を聴講していた学生からは「熱心さが伝わった」、「親切でわかりやすかった」などの感想のほか、「来年も工科大学で教えてほしい」と願い出る学生もいました。

本学としては、次年度以降も引き続きお願いする方向で検討しており、蓮池先生も「依頼があればやらせていただきたい」とコメントしています。

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2003/korea.htm>〕



新任教員のお知らせ

10月1日付けで、建築学科に中野克彦先生が就任しました。



プロフィール 中野 克彦 助教授『工学博士』

- 出身地：富山県富山市
- 専門：コンクリート構造学
- 研究テーマ：プレキャストコンクリートの接合部に関する研究
- 東京理科大学卒。泉創建エンジニアリング、東京理科大学助手、講師を歴任。
1993年、2001年コンクリート工学講演会優秀講演賞。
- 趣味：バドミントン、登山

中野先生のコメント

「黒四ダムに魅せられてコンクリート構造物に関わっていますが、鉄筋コンクリートの構造デザインの美しさを追及していきたいと考えています。鉄筋コンクリートは自由に成形でき、居住性に優れた建物を実現できる夢のある材料です。しかし、地震国である日本においては、地震力に対して安全性を確保することが最も重要です。構造実験を通して、コンクリート系構造物の安全性確保と高性能化の実現に向けて研究していきます」

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2003/kyoin-jinji10.htm>〕

編集後記

第3号の発行から半年も過ぎますと、やはり教職員や学生のみなさんそれぞれに「聞いてほしいハナシ」をいろいろと蓄積しているものですね。ホットなニュースの数々についつい引き込まれる... そんな紙面づくりをあれこれ考えて編集するのは大変楽しい作業でした。結果、私自身もたくさん記事を書きたくなりまして(笑)、従来号より4ページ増量で編集し、質・量ともより充実したものになったと思います。寄稿いただきました皆様に心より御礼申し上げます。是非、本誌に対するご感想をお聞かせください。
(飯野)

発行

新潟工科大学広報誌 第4号
平成15年11月15日
新潟工科大学広報委員会

新潟工科大学

〒945-1195
新潟県柏崎市藤橋1719
TEL.0257-22-8111 (代表)
FAX.0257-22-8112
E-mail:gakusei@adm.niit.ac.jp
URL:<http://www.niit.ac.jp/>